

馬放

農地・水・通信

第20号

発行日：平成29年6月30日

<http://mahanasi.sakura.ne.jp/>

いよいよ梅雨の季節となりました。季節の巡りとしては仕方のないものですが、私達の活動の日には降ってほしくないものです。

さて農業・農村には農業生産の役割だけでなく、国土の保全、洪水や土砂崩れの防止、自然環境の保全、美しい風景の形成等様々な働きを持っております。このような働きを「農業・農村の多面的機能」といいます。

私達の活動もこの考え方に基づいて行っております。

ここに、農地・水・通信も20号となりました。これまでの活動を振り返りながら、今後の活動にも積極的に参加しましょう。

美しい馬放をみんなで守り続けましょう!!

28年度の主な活動

月 日	活動項目	参加人数
5月14日	除草剤散布	2人
6月12日	草刈り・草取り	61人
6月19日	植栽	36人
6月26日	第1回生き物調査	20人
7月17日	草刈り	41人
7月18日	草取り	25人
7月24日	かかしづくり	71人
8月 7日	第2回生き物調査	13人
9月 4日	草刈り・草取り	44人
9月 9日	機場点検・異常気象見回り	4人
9月14日～10月8日	水路泥上げ	延べ17人
11月15日	畦刈り機・草刈り機点検清掃	4人
11月20日	施設の点検	12人
12月18日	人・農地プラン研修会	27人
平成29年2月25日	施設の点検	11人
3月3日～7日	農道整備	延べ7人
3月12日	農道整備・野鼠駆除・水路補修・泥上げ	43人
3月30日	総会	27人

9月4日 草刈り

参加者 41名

法面の草刈りは本当に大変です。
畦刈り機が力を発揮します。



畦刈り機の草刈り体験・希望の方ご連絡下さい。



防草シートを張ったところからも、草が伸びてきて抜き取るのが大変でした。
この時季の草は、ガツガツしていて、刈るのに皆さん一苦労したみたいでした。

9月4日 草取り



でも草刈り後はこんなにきれいに仕上がっています。
皆様のご協力に感謝です



草刈りの方に皆さん参加していただいたので、草取りは精鋭部隊で！

9月9日 機場点検



農繁期、田んぼの水掛に頑張ってくれたポンプに注油

9月4日 異常気象の見回り



台風13号による大雨で流されてきた大量のゴミ

9月14日～10月8日 泥上げ

大場利男さん、守屋嘉一さん、坂本正行さんによる水路の泥上げ
新田の神社側と、中ノ目側では高低が逆になっているために水の流れが悪くなっているとのことでしたので、約6日間かけて水路の泥上げをしていただきました。



水もスムーズに流れているようです。お疲れさまでした。

10月30日 役員会



今後日程につて施設の点検はいつにしようか、農道整備は？勉強会は？などいろいろ話し合われました。

11月15日 畦刈り機
草刈り機の点検・清掃



1年間頑張ってくれた機械に感謝。
清掃に点検とぬかりなく仕上げました。

11月20日 施設の点検



ここ穴がいているね。
土嚢袋で補修しないと
ダメだね！

この水路は昨年、
利男さんにコンボ
で泥上げしてもら
ったから大丈夫
だね！



道路の真ん中が陥没。これは手作業ではできないの
で、利男さんに頼んで直してもらわなければならないね。



11月の農道整備は市役所
からもらう砂利で対応でき
るね。3月にもう一度点検
して痛んでいたら砂利補充
しようということに

12月17日 馬放営農組合で大和町吉岡にある（株）パールライス宮城を見学

清水営業部長さん及び阿部製品部長さん
から（会社の概要や施設説明を受ける）



- 最新の機械施設に加え、「ほこり」ひとつ落ちていない施設の管理。
- 玄米の荷受けから精米の出荷管理まで、すべてコンピューター操作で管理され、力仕事はロボットで完結。
- 品質管理については、二重三重の対策が講じられている。



参加した人は、工場視察
が初めてであり、品質管
理、事故防止における管
理体制にビックリ



精米工場を視察して

平成28年12月17日の移動研修会で、大和町の(株)パールライス宮城（全農の子会社）の精米工場を視察しました。当工場は、とう精能力が年間45,600トンの大規模な施設です。

当工場は、食品（米）を取り扱っているため、衛生管理や異物混入などに特に留意した最新の大型機械設備を備え、その規模の大きさに驚きました。また、消費が増えている「無洗米」に対応した設備も備えておりました。更に、製品（精米）は、機械設備による食味などの確認のほか、炊飯して食べて確認のうえ出荷するなど、万全を期していました。

当工場は、消費者や取引業者の信頼確保を第一とし、様々な対応策を講じていました。このことを踏まえ、生産者自らも栽培管理や機械設備の清掃などを徹底し、異物や異品種混入などを完全に防止する重要性を再認識させられた有意義な視察でした。

手嶋 精範

12月18日 「人・農地プラン」勉強会

26名参加



当地区の高橋勝さんを講師に、当地区の将来農業の方向性について、集落全体の取り組みとして考え、地域の農業の「人と農地の問題解決」に向けて、「人・農地プラン」「農地中間管理事業」「農地集積バンク」の内容について研修会を開催しました。

講演内容

- ・現在のところは担い手に不足はないが高齢化が進んでいる。
 - ・圃場整備が進んでおり農地については効率的に利用している。
 - ・集団転作に取り組んで作業効率も高い。
 - ・耕作放棄地はない。
- 今のところ何も問題はない様に見えるが、将来の農業の方向性について、組織の活動を通じ毎年話し合いを継続して行く事の重要性について、研修会を通じ確認した。
- 平成29年度の農地集積による水稲作付け場所及び大豆の集団転作について、換地委員会を開催し、個々の農家の承諾を得て取り組んでいる事を確認した。

人・農地プラン研修会を受講して

今の地区活動は60歳以上が主力で60歳以下の参加者は少数である。10年後に今の主力がどれだけ参加できるかは疑問で、このまま後継者が出てこないと農業・地区環境の保全上重なる草刈りや農道・水路の維持作業といった人手が必要な作業はできなくなる。年齢構成等から、これまで同様、地区にその役割を担わせるのは不可能で、市、土地改良区等と行政区を越えた枠組みや作業委託等の検討を行う時期にきていると思う。

守屋 知明

2月5日 役員会



今後の日程を決めるとともに、多面的機能支払交付金活動最終年度に向けて、これから作成していかなければならない地域資源保全管理構想をどのようにしていけばいい

のか、意向調査はどうするのかなど話し合われました。

2月25日 施設の点検



給水槽の泥の堆積状況、水路の破損箇所、農道の傷み具合等点検して廻った結果、農道整備（砂利の補充）は必要ということになりました。

3月3日～7日 農道破損箇所補修



11月の施設の点検で見つかった農道の陥没の修理を大場利男さんをお願いして直していただきました。

3月12日 農道整備と水路の泥上げ

43名参加



大先輩達に交じってヤングボーイも登場。
とても頑張ってくれました。



やっぱりこの機械は働くね。
積み方はアットという間に終わります。



泥上げが一番身体に効えるね。



ここは水が流れないし、草は生えてくるし、大変な場所です。腰も痛くなります。



毎年、手際が良くなり、出来上がるまでの時間が短くなってます



いっぱい作られた土嚢袋も水路の補修に一役



かたわらではヤソ駆除も行われました。

3月19日 役員会



総会に向けてと体制整備構想について話し合われました。体制整備構想については、皆さんにアンケートを出しますので、ご協力よろしくお願いいたします。その結果、作成するということになりました。

3月30日 総会



総会で多くの皆様から貴重な意見をいただきました。29年度の活動もよろしくお願いいたします。

29年度の主な活動計画

月 日	活 動 内 容	開始時間
4月中旬	パイプライン機能点検	
6月11日	草刈り	6:00
6月17日	草取り	8:00
6月18日	植栽	8:30
6月25日	第1回生き物調査	6:00
7月16日	草刈り	6:00
7月17日	草取り	8:00
7月23日	かかしづくり	9:00
8月 6日	第2回生き物調査	6:00
9月上旬	草刈・草取り	
11月中旬	施設の点検	
11月下旬	農道整備・農用地法面補修技術研修	
12月上旬	勉強会	
3月上旬	泥上げ	
3月下旬	総会	

生き物調査の時にお話に出たコケについて

※ 集会所の地面に発生した、きくらげ状の物体の正体

- 調査の日に最も話題になっていた件です。生き物調査に出発する前に、会長区長をはじめベテランの方々が口々に、「きくらげだら、食えんでねえすかや?」「ほんなごど言ったって、おらあ食いでぐねえねや!」
- 「除草剤撒いたっげ、その跡さ、こいつだけ出でくんだおんねや?」「薬もいいけど、草も段々強くなってくっから、困ったもんだねや!」と、楽しいお話をされてました!
ということで笠原さんに調べていただきました。
- ◇どうやら、「イシクラゲ」という陸生の藍藻類（藻）の一種らしく、古くは食用になっていたらしいです。

笠原さんが、当時皆さんがお話ししていた言葉を書き留めてくれていました。そのまま掲載します。



謎の物体「イシクラゲ」

庭先や道ばたなど様々な裸地の地表、コンクリート面などで見られ、雨が降った後に藍緑色寒天質の膨潤した群体が突然目立つようになる。乾燥状態では地面にへばりついた黒いかさぶたのように見え、手で揉めば小片-粉末状に壊れる



日本では古来から食用として（酢の物）や、お菓子としても売られているようです

駆除方法

お酢をかけましょう！！
ホームセンターに売っている木酢液など、ちょっと専門的なものでもいいですし、ご自宅にある食用の酢でもOK。このイシクラゲ、酸性を嫌うんです。アルカリ土壌で繁殖する性質があるので、その逆で酸性になると弱ってしまうそうです。

《インターネットから》

※カタツムリ（マイマイ）観察

- ポイントは（１）大きさ、（２）巻き方（３）形（４）色（５）もよう（スジの入り方）を注目することのようです。
- この点に注意して観察して見て下さい。



大人と子供の見分け方は殻の口のところが反っていると大人で反っていない方が子供ということになります。また年を越したカタツムリにはスジがあることやそのスジから色が違っていると、その筋が何本あるかによってもそのスジを数えればある程度の年は解るそうです。

それからカタツムリにも左まきと右まきがあるみたいです。